



いずみさの

No.201
2026.8.1

市議会だより



New Topics

令和8年度泉佐野市一般会計補正予算
(第3号・第4号)

令和8年度泉佐野市水道事業会計補正
予算(第1号)を可決しました

目次

- ◆ 議会活動報告..... 2~3
- ◆ 6月定例会の結果報告..... 4~6
- ◆ 一般質問、豆知識..... 7~11
- ◆ ご案内..... 12

本会議・委員会をインターネットで配信しています。泉佐野市議会

検索



政務活動費管理システム「セムカン」操作研修会

5月26日

本年度より本格導入した、政務活動費管理システム「セムカン」の操作研修会を実施しました。



りんくう総合医療センター 視察及び意見交換会

6月16日

6月16日、委員会委員で「りんくう総合医療センター」を訪れ、視察及び意見交換会を実施しました。

「赤ちゃんいのちのボタン」の設置予定地を見学し、設置に向けた問題点等について説明を受けました。

その後、りんくう総合医療センターの現状等についての説明を受け、意見交換を実施しました。

意見交換会での話題は多岐に渡り、活発な意見交換が行われました。



令和8年6月より開催されている「いずみさの美味しい給食カフェテリアコックベアー」を視察しました。

コックベアーでは、市内在住で市立小中学校に通う様々な理由により学校を休みがちな児童・生徒と市内在住で国・府・私立小中学校に通う児童・生徒を対象に市立中学校の学校給食と同じ献立を提供しています。

6月17日の献立は「牛乳、アップルパン、ミネストローネ、チキンナゲット、三度豆とツナのサラダ」、18日の献立は「牛乳、ごはん、サンラータン風卵スープ、コロッケ、厚揚げとキムチの炒め物」でした。

コックベアーの事業概要の説明を受けたあと、試食もさせていただき、大変美味しくいただきました。



6月定例会を開催

総務産業委員会

令和8年6月定例市議会総務産業委員会に付託されました案件の主な内容についてご報告いたします。

泉佐野丘陵東地区造成工事など、9件の工事請負契約締結について議論されました。

他に、職員の退職手当についての条例の一部を改正する条例制定についてなど3件の条例制定について、2件の損害賠償を定めること及び和解についてを含む計18件について議論され、全員異議なく承認されました。

また、一般会計補正予算では当委員会に付託されました事項について慎重審議を重ねたのち、全員異議なく承認されました。



厚生文教委員会

令和8年6月定例市議会厚生文教常任委員会に付託されました案件についてご報告いたします。主な議案に対する内容をご紹介します。

生活保護費事業につき、最高裁での判決を受けて、受給者に対して差額の支払いについての質疑。

赤ちゃんいのちのバトン・内密出産に関する予算についての質疑及び市内中学校の修学旅行費助成金についての質疑など。

多くの委員から質疑されました。すべての案件が全員異議なく賛成承認されました。



議決結果一覧表

全会一致で可決された案件

議案番号	案 件
議案第41号	損害賠償の額を定めること及び和解について
議案第42号	工事請負契約締結について 泉佐野丘陵東地区造成工事について、工事請負契約を締結するものです。
議案第43号	工事請負契約締結について 令和8年度泉佐野土丸線道路整備工事について、工事請負契約を締結するものです。
議案第44号 議案第45号 議案第46号	工事請負契約締結について 市立児童発達支援センター移転整備工事、電気設備工事、機械設備工事について、それぞれ工事請負契約を締結するものです。
議案第47号 議案第48号	工事請負契約締結について 日根野小学校給食調理場整備工事、機械設備工事について、それぞれ工事請負契約を締結するものです。
議案第49号 議案第50号	工事請負契約締結について 長南小学校給食調理場整備工事、機械設備工事について、それぞれ工事請負契約を締結するものです。
議案第51号	職員の退職手当についての条例の一部を改正する条例制定について



議案番号	案 件
議案第52号	期末手当の支給割合の特例に関する条例制定について
議案第53号	泉佐野市市税条例の一部を改正する条例制定について
議案第54号	字の区域の変更及び町の新設について 新家一丁目、新家二丁目及び新家三丁目を新設するものです。
議案第55号	損害賠償の額を定めること及び和解について
議案第56号	大阪広域水道企業団の共同処理する事務の変更及び大阪広域水道企業団規約の変更について関係市町村と協議することについて
議案第57号	泉佐野市水道事業及び下水道事業の設置等に関する条例及び泉佐野市職員等の損害賠償責任の一部免責に関する条例の一部を改正する条例制定について
議案第58号	泉佐野市立学校給食センター設置条例の一部を改正する条例制定について
議案第59号	令和8年度泉佐野市一般会計補正予算（第3号） 歳入歳出予算の総額に、歳入歳出それぞれ706,328千円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ86,894,376千円とするものです。
議案第60号	令和8年度泉佐野市水道事業会計補正予算（第1号）
議案第61号	令和8年度泉佐野市一般会計補正予算（第4号） 歳入歳出予算の総額に、歳入歳出それぞれ44,256千円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ86,938,632千円とするものです。
議案第62号	人権擁護委員候補者推薦についての意見を求めることについて 鈴木 一 氏、百村 正義 氏、飯田 恵子 氏 を推薦することに同意しました。
議案第63号	農業委員会委員任命についての同意を求めることについて 14名の農業委員会委員を任命することに同意しました。
議案第64号	公平委員会委員選任についての同意を求めることについて 北谷 育代 氏 を選任することに同意しました。



一般質問

議員が市の一般事務の執行状況や将来に対する方針などについて質問します。泉佐野市議会では、議員一人あたりの質問時間は答弁を含めて30分で、会派を代表して行う代表質問は所属議員の人数分の時間を使うことができます。



一般質問に関するページの原稿は、本会議での発言を要約し、掲載しています。質問の全内容は、インターネットで泉佐野市議会ホームページの「議会中継」または、「会議録検索」（9月末日配信予定）をご覧ください。

議会中継のQRコード▶



公明党
泉佐野市議会議員団 代表
松村 正秀 議員



物価高騰対策について

Q 市内事業者、市民への追加支援が必要ではないか。

A 物価高騰及び原油価格高騰の影響を受けている全ての産業の市内事業者の負担軽減と経営の安定化を図るため、車両等に対し支援金の給付を予定しています。物価高騰や燃料価格の変動は依然として続いており、事業者の負担は大きいと認識していますので、国や大阪府の動向を注視しつつ、本市としてできることを検討してまいります。



5歳児健診について

Q 5歳児は発達障害の特性が表れやすく、この時期の適切な支援がその後の成長・発達に大きく影響するとされます。本市として導入についてどの様に考えているのか伺います。

A 既存の発達相談や経過観察健診、巡回相談等によるフォローアップ体制との連携を保ち、医師及び各種専門職の人員確保の課題に対応している先行自治体の実施方法を参考にし、

- ・物価高騰対策について
- ・健康について
- ・障がい者、高齢者福祉について
- ・防災、安全について

5歳児健診の実施に向けた具体的な準備を進めてまいります。

障がい者、高齢者福祉について

Q 災害時、ろう者の方は手話で通じ合える避難所が安心との声があります。また、情報取得のため「目で聴くテレビ」対応のアイ・ドラゴン設置を要望します。

A 本市としましては、指定避難所や福祉避難所における聴覚障害者も含めた要配慮者への対応については、ソフト面・ハード面の両面から、本市の実情に合わせて整備したいと考えています。

Q りんくう総合医療センター受診時の呼出しに、音や光、振動で知らせる受信機を設置して欲しい。

A 聴覚に障害のある患者様へは、受付、診察などにおいて、筆談による対応を基本としています。また、当日番号をモニターに表示する方法を採用しており、視覚的に確認できるようになっていきます。現時点で呼び出し機器の導入には至っていませんが、今後の課題として研究してまいります。

Q 補聴器購入費助成について、より多くの高齢者が利用できるよう対象者の拡大を要望します。

A 現在の「非課税世帯要件」を維持してまいりたいと考えておりますが、高齢者の皆様の利用実績やご意見をしっかりと受け止めながら、財政状況や助成対象基準を勘案しつつ、所得制限の拡充も含めた制度の運用方法について、前向きに検討してまいります。



防災、安全について

Q 大震災時の通電火災を防ぐため、感震ブレーカーの普及を補助金活用し推進してほしい。

A 重点密集市街地や高齢者世帯等を対象とした補助制度を実施している事例も見受けられ、先進自治体の取組状況について対象範囲、事業費などの情報収集を行い、本市の地域特性や既存の防災施策との整合性を踏まえながら、感震ブレーカーの効果的な普及方策について調査研究してまいります。

自由民主党

泉佐野市会議員団

代表

西野 辰也

議員



- ・教育について
- ・下水道について
- ・避難タワーについて
- ・生活保護費について

教育について

Q A Iドリルについて全般の説明と、他校の導入事例やメリット・デメリットなど説明してください。

A 本市では、今年度よりA Iドリルを全小学校で導入し、朝学習などでA Iが提示する習熟度別の問題で知識の定着・思考力の向上を図っています。子ども一人ひとりの解答の正誤などを瞬時に分析し、最適な難易度の問題を自動で出題するなどのメリットや教員側にも採点業務が自動化されるなどのメリットがあり、熊取町が先行導入しています。「文字を書く機会」が減少するデメリットについても、書く力の育成は各校の指導計画のもとに取り組んでいます。A Iドリルと教員による指導力をしっかりと組み合わせることが極めて重要であると考えています。

Q 学校によってタブレット使用に統一性がないように思います。が、どの様にお考えですか。

A I C T機器の持ち帰り頻度については学校間にばらつきがあり、

小学校では「A Iドリル」、中学校では新たに導入した「英単語アプリ」の積極的活用を進めてまいります。「デジタル教材」を家庭学習に活用するためには、教員のI C T活用指導力、I C T活用に対する意識の向上が必要不可欠であり、教員へのI C T研修、活用に関わる相談支援体制を構築し、より一層のタブレット活用の充実に努めてまいります。



Q オンライン授業の導入と自宅でのネット環境について説明してください。

A 学校はこれからの社会でさらに必要性が増す社会性や人間力を児童生徒が身に付ける場であり、児童生徒と教師、児童生徒どうし等が直接触れ合うことが学校教育の根幹であり、最も重要です。しかし、大規模な自然災害など、不測の事態により登校が困難となった際にも、子どもたちの学びを止めないための「学習保障」の備えとしてオンラインの活用に向けた体制を平時から整えておくことは不可欠です。また、家庭のインターネット環境については、令和3年度から就学援助費として「オンライン通信費」を追加し、今年度は15,000円を援助しているため、一定改善はできていると考えています。今後もオンラインを活用した学習内容の充実が図れるよう幅広く研究してまいります。



チーム泉佐野創生 代表
大和屋 貴彦 議員



農林水産業を命守る公共基盤へ

Q 農業産出額と人口の推移は。

A 主要品目であるキャベツ、水ナス、玉ねぎの産出額が台風21号の被害前の平成29年は12億円であったのに対し、被害直後の令和元年には5億4,000万円へと大きく落ち込み、令和5年度も6億6,000万円に留まっています。平成27年度の720名の平均年齢64.2歳から令和7年には358名の67.6歳となっています。

Q 公社型の農林業マネジメント組織の設立で食と自然を守り抜くまちをめざしていただきたい。

A 農地の集約化や作付計画の最適化、販路開拓等を一体的に担う事ができる利点があり、地域全体の生産力向上や担い手確保に繋がる可能性がありますが、地域の理解や合意形成に時間を要し、運営に必要な人材確保や財源の確保という課題もあり、現時点において検討する予定はございません。



- ・農林水産業を命守る公共基盤へ
- ・子どもファーストの教育改革を
- ・地域ポイント「さのぼ」を活用した地域経済循環型社会を

子どもファーストの教育改革を

Q 第三中学校が初めて実施した先進的な土曜授業とは。

A 高校の学びに触れることを通して、学習意欲の向上や進路、生き方について考えるため、11校18名の高校の先生方に出前授業をしていただきました。授業は多種多様な内容で、生徒たちも熱心に取り組む様子が見られました。

Q 10年の節目を迎えた土曜授業の今後をどう考えているか。

A 土曜授業の趣旨に則り、「子どもたちのゆとりある学びの環境整備」及び「地域に開かれた学校づくり」を推進する為、今後一層家庭や地域との連携を深め、土曜授業ならではの魅力ある取組みを進めてまいります。

Q 校内支援教室を制度として保障すべきではないか。

A より良い居場所や学びの場とする為に必要な備品や運用に関する支援についても充実させていきたいと考えています。

地域ポイント「さのぼ」を活用した地域経済循環型社会を

Q 市内商店・企業をデジタルプラットフォームで支援すべきでは。

A 本市に適したデジタル技術を活用した情報発信や販路拡大の方法を研究し、さのぼとの連動の可能性等、単なる情報掲載にとどまらない利用者の行動を促す仕組みを研究し、地域内消費の拡大や商店街の活性化に努めてまいります。

Q さのぼの経済効果の推移は。

A 令和3年度が約7億7900万円、令和5年度が約27億4300万円、令和7年度では約40億900万円と大きく拡大しています。

Q 地域SNSの導入でツナガル地域社会の再構築を図るべきでは。

A 町会連合会幹事会の地域コミュニケーションアプリを活用した実証実験で、業務の負担軽減や迅速化等について検証し、検討してまいります。



新緑未来 代表 中藤 大助 議員



子育て支援について

Q ヤングケアラーに関するその後の取組みについて

A これまでの実態調査の結果を踏まえ、今後、具体的にどのような方法で地域と連携を取りながら、支援体制を構築していくのかお示しくだけいます。

A 本市では、令和5年度に実施した実態調査の結果を踏まえ、令和6年度に設置した「要保護児童対策地域協議会ヤングケアラー支援部会」を中心に、教育委員会、学校等の関係機関と連携強化を図ってまいりました。また、同年度に開始した「子育て世帯訪問支援事業」により

支援員が家庭を訪問し、子どもが担っている家事などの負担軽減に繋がっています。今後も教育委員会との情報共有や学校現場との連携をより一層深めながら、要保護児童対策地域協議会ヤングケアラー支援部会を中心に、早期発見と適切な支援に取り組んでまいります。



- ・子育て支援について
- ・高齢者問題について
- ・熱中症対策について
- ・樹木の老朽化について

樹木の老朽化について

Q 公共場所の樹木の安全性について
近年の植栽環境の変化による樹木の老朽化や大型化する台風などの自然災害により、倒伏の恐れのある樹木が増えています。植栽による事故の未然防止に対する対策をお示しくだけいます。

A 本市では、市民の皆様が安心して公園や道路などの公共空間を利用できるよう、日常的な巡回点検をはじめ、樹木の剪定や病害虫の防除といった維持管理に努めており、幹の空洞化や腐敗、亀裂、傾斜などの異常があった場合には、危険性に応じた支柱の設置や伐採など必要な措置を講じています。また、樹木の安全管理については、樹齢のみで判断するのではなく、生育状況や幹の健全度、周辺の利用状況などを総合的に評価し、倒木などの危険性が高いと判断されるものは、安全確保を最優先に考え、伐採や剪定などの必要な対策を実施しています。





ヤングケアラーの早期発見に向けた取り組みと支援について

Q 相談しやすくする環境整備について

A 本市では、要保護児童対策地域協議会の中に「ヤングケアラー支援部会」を設置し、教育、福祉等の関係機関が連携して支援できる体制を整備しています。今後も関係機関との連携を図りながら、ヤングケアラーが孤立することなく安心して成長できる環境づくりに努めてまいります。

不登校支援について

Q 保護者支援について

A 学校にスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等を配置し、教育支援センター「さわやか」「シャイン」には教育相談員等を配置し、保護者の孤立を防ぐ切れ目のない相談体制の構築を進めています。



- ・教育・子育てについて
- ・地域防災力の強化について
- ・人とながり孤立をなくす福祉について
- ・地域のコミュニティ・つながりの促進について

Q 中学卒業後まで見据えた支援としてどのような取り組みをしているのか

A 中学校の早いうちから進路に関する学習や情報提供を行ったり、子どもが主体的に進路を選択できるように中高連携を行っています。

防災教育について

Q ジュニア検定を受けた後の学年でも継続した防災教育について

A 東日本大震災を経験した「語り部」に高学年を対象とした講演等をしていただいています。

Q 防災教育と地域防災活動の連携について

A 避難所運営において、トイレを流す水を中学生が運んだり、情報コーナーを作るときに、新聞等を切って貼るといった役目を担ったりしており、自主防災活動との連携は重要であると考えております。

Q 防災運動会や防災スポーツ等、子どもを軸に大人も巻き込んで活動を広げる取り組みについて

A 本市でも自主防災組織が行う防災訓練の中では防災クイズ、バ

ケツリレー等を取り入れている地域もあります。今後も防災運動会等の様々な手法について自主防災組織への情報提供をする等により多くの市民が防災活動に参加できる環境づくりに努めてまいります。



市民のニーズに応じた避難所運営と環境整備について

Q ペットの同行同伴避難に特化した施設の環境整備について

A 環境省のガイドラインに基づき、飼い主とペットがともに避難できる「同行避難」を基本とし、一方で動物が苦手な方などもあり、避難者相互の理解の配慮のもと、飼養スペースを分離する等、適切な運営を行う必要があります。

Q 乳幼児を抱える世帯や妊産婦専用の避難所について

A 授乳スペースやおむつ交換スペースの確保に努める等、女性や子どもの視点に立った避難所運営を推進しています。

Q デジタル避難所運営の取り組みについて

A 本市でも防災情報システムや防災メールを活用した情報発信は行っていますが、避難所運営全体のデジタル化については今後検討を進めていくべき課題であると考えています。また、大阪府では避難所運営システムの構築に向けた検討が進められており、大阪府の動向も注視しながら、本市におけるデジタル技術を活用した避難所運営の体制の検討を進めてまいります。

デマンド交通について

Q デマンドタクシー実証実験を終えて今後の取り組みについて

A 実証実験の結果やコスト面を検討した結果、デマンド交通の本格運行は見送らざるを得ないと判断しました。一方で、公共交通が不便な地域における移動手段の確保に向けて、今後は現行のコミュニティバスに新たなルートをつ追加し、計5ルートでの運行により市民の利便性向上に努めてまいります。



辻中 隆 議員

- ・防災について
- ・地域見守り活動について
- ・教育について



防災について

Q 地震・停電・故障の時に市役所庁舎内を含む公共施設でのエレベーター内に必要な「エレベーターチェア」の設置導入について。

A エレベーターチェアは、足腰の弱い方が休憩用に腰掛けることができるほか、内部には飲料水や簡易トイレなどが収納されているため、効果的な災害時への備えの一つであり、公共施設への導入に向け、先行自治体の事例などを参考に、効果的な導入のあり方について検討を進めてまいります。

地域見守り活動について

Q わんわんパトロール隊の導入について。

A わんわんパトロール隊の導入は、地域の防犯意識の向上などに繋がるだけでなく、飼い主のモラルや散歩マナーのさらなる向上を後押しする有効な取り組みと考えており、本市における必要性や実現可能性などを総合的に勘案しながら、検討を進めてまいります。



中村 慎作 議員

- ・全国学力・学習状況調査を活かした学習力向上を
- ・介護予防としての移動支援を
- ・さのほで地域の支えあい推進を



全国学力・学習状況調査について

Q 調査結果をどの様に、授業改善や現場の支援につなげますか。

A 調査結果で判明した課題の解決には、今年度導入したAID（アイドリ）により基礎的学力の向上等の効果を期待しています。また各校の主体的な教育実践に伴走する学力向上のアドバイザーやコーディネーターを派遣し、授業観察やヒアリングを実施しサポートしています。

介護予防としての移動支援を

Q コミュニティバスを利用できない高齢者や要支援者の、孤立やフレイル対策のために、「移動支援・訪問型サービスD」の制度化を。

A 市全域における「訪問型サービスD」としての制度化や一律のサービス展開に至るには、担い手となるボランティア人材の確保等、クリアすべき多くの課題があります。まずは地域ニーズと住民の思いを繋ぐマッチング等をより一層強化する等、本市に合った支援策のあり方を研究してまいります。

その他の一般質問

中庄谷 栄孝 議員

- ・塾代助成事業の拡充について
- ・高齢者の居場所づくりについて
- ・期日前投票について



※議員間の申し合わせにより、個人質問は年間2回まで希望の号に掲載し、それ以外の号は質問項目のみを掲載しています。

総務産業委員会

総務産業委員会は、市役所の運営や財政、地域の産業や観光について話し合う委員会です。

泉佐野市議会での定数は9名です。

市の予算の使い方、防災対策、商店街の活性化、観光振興など、市民生活やまちの将来に関わる幅広い分野を担当しています。泉佐野市がより住みやすく、活気あるまちになるよう、議案の審査や調査を行っています。



豆知識



令和8年9月定例会より、議会傍聴（本会議）にお越しになった方で、以下の条件を満たされた方に地域ポイント「さのぼ」を200ポイント付与する事業を試験的に開始します。

1. 泉佐野市議会傍聴規則を遵守し、本会議を30分以上傍聴された方
2. 傍聴後、アンケートにご協力いただいた方



さのぼカード

さのぼアプリ



※試験的に開始しますので、今後、運用が変更となる場合があります。

※傍聴の際は、さのぼカードまたはさのぼアプリをご持参の上、議会事務局までお越しください。

◆9月定例会の日程表◆

- 9月 1日（火） 本会議
 9月 3日（木） 総務産業委員会
 9月 7日（月） 厚生文教委員会
 9月 9日（水） 決算特別委員会
 9月10日（木） 決算特別委員会
 9月11日（金） 決算特別委員会
 9月14日（月） りんくう総合医療センター対策委員会
 9月16日（水） 行財政委員会
 9月25日（金） 本会議
 9月28日（月） 本会議
 9月29日（火） 本会議

※午前10時開会予定です。なお、日程は変更することがあります。

※手話通訳をご希望の方は、議会事務局までお問い合わせください。

表紙の写真



市内小学校から3年生のみなさんが、議場見学にられました。議会の役割について議長からお話をきいたり、議長席に順番で座ったりする様子が見られました。

市議会だより編集委員

松	佐	高	中	委員	南	副委員長	向	委員長
村	野	橋	村				江	
正		圭	慎		大		英	
秀	剛	子	作		地		雄	